様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：１０１０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３８０９９８

研究課題名（和文）地域再生における教師の役割と実践の成立条件―「地域創造型教師」の養成に向けて

研究課題名（英文）The Role of the Teachers and the Conditions for their Educational Practice to Revival Regional Communities -To improve Program Development for Training Community Creation Teachers

研究代表者
宮前　耕史（Yasufumi, Miyamae）

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：３０５８４１５６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は、地域再生における教師の役割と、教師の地域再生に向けた実践が成立していくための諸条件を明らかにすることである。本研究では、教師の地域に向き合う姿勢・意識には「地域活用型」「地域参加型」「地域創造型」の３つがあると考える。
　これからの地域社会に求められるのは「地域創造型」教師であり、またこうした姿勢や意識をもつ教師の育成には相応の学習機会が用意されなければならない。
　そこで本研究では、「地域創造型」教師を育成するための教員養成プログラムの開発を将来的な課題とし、その前段階として、前記課題に関する実証的なデータの収集と分析を行った。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to investigate the role of the teachers in community revitalization and the conditions of the teachers' educational practice for community revitalization.We think there is three types of mindsets for teachers to face communities, "Community-Utilization Mindset", "Community Participation Mindset", and 'community Creation Mindset". And We think regional communities need the "Community Creatin" teachers in the future. But we should prepare the prgram for training "Community Creation Teachers".
 Therefore, in this study, We collect and analyze substantial data which concernes with our theme mentioned above. Anc we are tackling the issue of improving education from one of lectures to one that aims at students learning the Community-Creation Mindsetin the future.

研究分野：日本民俗学

キーワード：地域創造型教師　持続可能な地域づくり　地域とともにある学校　学校を核とした地域づくり　地域学校協働　教師教育

## １．研究開始当初の背景

### (1)過疎化する地域に囲まれた教員養成大学で見えてきたこと

申請者は、現在の勤務校である北海道教育大学釧路校に赴任して３年目を迎える。周辺地域への教育民俗学的調査を行う中で、若者の流出に歯止めがかからず過疎化と高齢化が進み、学校統廃合を繰り返す北海道東部地域（道東地方）の郡部「へき地」市町村の厳しい現実を目の当たりにしてきた。しかし将来教師を目指す学生はというと、こうした地域に身を置き教師を目指しながらも、驚くほど地域のおかれた厳しい現実を知らないし、関心がない。

近年「家庭・学校・地域の連携」が声高に叫ばれる中で、学生たちも「地域」の存在を意識はしている。意識はしているが、地域の置かれている厳しさを見ようとはしない。なぜか。それは、「家庭・学校・地域の連携」論が、学校の教育機能を補填・拡充していくために地域を「活用」することをねらいとし、将来教師を目指す学生も、そうしたまなざしで地域を見るからであると考える。

### (2)「地域活用型」教師から「地域創造型」教師へ

【表１】は、こうした実感をもとに、教師の地域と向き合う際の姿勢や意識を「地域活用型」「地域参加型」「地域創造型」の３つの理念型で示したものである。「学校応援団」の組織化をめざす「学校支援地域本部事業」等、昨今の政策は「地域活用型」の発想と言える。

【表１】教師が地域に向き合う姿勢や意識の３類型

| 理念型 | 背景にある理論モデル | 求められる教師の姿勢や意識・取り組み等 |
|---|---|---|
| 地域活用型 | ・人材活用論<br>・「家庭・学校・地域」の連携 | ・地域資源の発掘と教材化<br>・地域人材の活用 |
| 地域参加型 | ・地域学校経営論<br>・「教育コミュニティ」論 | ・地域の中の学校<br>・「地域の教育力」への理解 |
| 地域創造型 | ・地域教育計画論 | ? |

「地域活用型」と「地域参加型」とは同じコインの裏表の関係にある。地域を活用していくためには、地域行事等への参加を通じて「地域の教育力」への理解を深め、「地域の中の学校」という視座を獲得すると同時に、地域住民との間に相応の信頼関係を構築していく必要があるからである。「地域参加型」は、希薄となった都市部の人間関係を、学校を核として再構築していく「教育コミュニティ」論に代表される（高田一宏 2005『教育コミュニティの創造―新たな教育文化と学校づくりのために』明治図書）。

しかし「地域参加型」教師には、人間関係の希薄となった都市部において、学校を舞台に地域社会を再構築していくことは期待できても、濃密な人間関係を維持する一方で、地域そのものが存続の危機にある郡部の「へき地」において、その「再生」のために住民と「協働」していくことは期待できない。この差を埋めるためには、「地域創造型」教師への飛躍が求められる。

### (3)「地域創造型」教師の理論的基盤としての地域教育計画論

「地域創造型」教師の系譜は、戦後教育学研究の黎明期に展開された地域教育計画論にまで遡ることができる。たとえば、大田堯の「本郷地域教育計画」では、教師と地域住民との「協働」により、子どもと地域社会の抱える課題の解決―新たな地域社会の「創造」が目指された。福井雅英によれば、それは「教師の自律性と専門性を高める実践であり、現場教師が実践主体として成長していく一つの筋道を示」すものでもあった（福井雅英 2005『本郷地域教育計画の研究―戦後改革期における教育課程編成と教師―』学文社）。

地域教育計画論を地域再生の方法論として現代的に継承した論者に鈴木敏正がいる。鈴木は自身の「地域づくり教育」論を発展させながら、「地域再生法」（2005 年制定）に基づく計画手法においては、とりわけ「自治体教育振興計画」の策定を義務付けた改正教育基本法（2006 年）以降、教育のあり方がいっそう地域の未来を規定していくと指摘した（鈴木敏正 2008『現代教育計画論への道程』大月書店）。ここにおいて学校は、地域の再生を担う主体として明確に位置付けられることとなった。しかしその一方、学校がそこでそうした役割を遂行していくために、現場の教師たちにどのような実践が求められるのか、また教師がそうした実践を展開させていくためにどのような条件が必要とされるのかといった議論はなされてはいない（したがってまた、その職能開発に関する議論もなされてはいない）。

## ２．研究の目的

### (1) 本研究の課題

以上を踏まえ、将来における「地域創造型」教師を育成するための教員養成プログラムの開発を課題とし、本研究では、その前段階として、次の３点を明らかにする。

①第一に、地域再生のプロセスを、学校・教師・地域住民・ＮＰＯや各種団体・地域行政を含む関係者の学習プロセスとして描き出し、その組織化・展開過程において学校がどのような役割を果たし、教師がどのような実践を行ったのかを具体的に明らかにする。

②第二に、教師がそうした実践を行うためにはどのような条件が必要であったのか。このような事柄を、学校運営のあり方や学校と地域社会との関係、教師と地域社会との関係、教師の地域に向き合う意識や姿勢のあり方等といった面から多角的かつ実証的に明らかにする。

③第三に、そうした学校運営のあり方や、学校・教師と地域社会との関係、教師の地域に向き合う意識や姿勢がどのように形成さ

れたのか、教師はじめ関係者の意識変容の過程も含めて明らかにする。

（2）本研究の意義・独創性

本研究が明らかにする「地域創造型」という教師の新たなあり方は、汎用的でかつ実効性の高いものである。

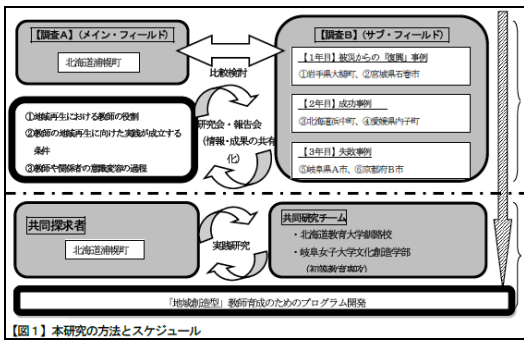
本研究が提示する「地域活用型」「地域参加型」「地域創造型」という教師が地域に向き合う際の姿勢や意識の３類型は、申請者が勤務する教員養成の現場の課題意識から生まれたものであるが、しかしこうした課題意識は、都市部も含め、現在日本各地に共通するものであろう。このことを実証していく点に、また一方では本研究の目的があり、意義がある。

さらに特筆すべきは、本研究の実践的な貢献度の高さである。「地域創造型」教師への飛躍の必要性は、東日本大震災の被災地において、学校を核として地域住民との協働により地域の復興、新たな再生に向け奮迅する教師の姿を見るとき強く感じる。地域と子どもの未来を拓く教育に期待が寄せられている。今こそ地域の再生に向け、その最前線で住民と協働できる教師が求められているのである。

３．研究の方法

（1）本研究の方法

本研究は、「地域創造型」教師を養成するための教員養成プログラム開発を将来的な課題として行われるものである。したがって、本研究が留意すべきは、地域固有の文脈に立脚しながらも、その普遍性と実効性とを問わねばならないという点である。そのため、本研究では、これまで共同研究チームが北海道浦幌町において行ってきた現地調査から得られたデータ（メイン・フィールド、【調査Ａ】）と、新たに選定する調査地から得られるデータ（サブ・フィールド、【調査Ｂ】）とを比較検討しながら最終的な結論を導いていく（【図１】参照）。



【図１】本研究の方法とスケジュール

調査地は、いずれも地域再生の取り組みに教育・学習が中心的な位置を占める先進・先行事例であるが、成功例のみならず、比較対照のために失敗事例の内情を把握していくことにも努めた。また、調査地は共同研究チームのメンバー個々人による研究の蓄積がある地域より選定したが、他地域事例についても情報を収集しつつ、本研究の課題により適合的な事例がある場合には、調査地を変更する等、柔軟に対処した。

（2）本研究の推進体制

本研究の研究課題は、過疎化する地域に囲まれた教員養成大学で学生・地域に向き合う中で生まれたものである。そこで共同研究チームは課題意識を共有する北海道教育大学釧路校の若手教員を中心に組織した。

共同研究チームのうち北海道教育大学釧路校の教員４名は、従来、地域教育研究会を立ち上げて、北海道浦幌町での現地調査と浦幌町より地域再生の実践者を招いての検討会、「地域創造型」教師のアイデアの国際フォーラムやシンポジウム等での発表等を行ってきた。そうした中で高い評価を得てきたのも事実であるが、その一方で、課題として学校内部の分析の弱さが浮かび上がった。こうした弱点を克服し、また研究のタコ壺化を回避するため、教育学、とりわけ学校経営の立場から「学校と地域の連携」や校長のリーダーシップのあり方を専門的に追究し、授業づくりにも精通している安井氏（岐阜女子大学文化創造学部初等教育学専攻准教授、教育学）に共同研究者としての参加を要請した。いずれも専門領域で堅実な研究業績を蓄積しており、「地域創造型」教師養成のためのプログラム開発という未開拓の領域を見据え、本研究の課題を達成するベストなメンバーが揃ったと自負している。

４．研究成果

（1）１年目

本研究がメインフィールドと位置付ける北海道浦幌町において共同現地調査を実施し、それぞれの専門・分担の立場から検討を加え、意見交換を行った。

（2）２年目

本研究がメインフィールドと位置付ける北海道浦幌町はじめ、北海道浜中町・島根県隠岐島前地域・岐阜県岐阜市等、新規に開拓したサブフィールドにおいて調査研究を実施した。調査に当たっては、「地域創造造型教師」の実践の成立条件としての「学校と地域の協働体制」とその必要性、およびこれを確立するための集団としてのコミュニティ・スクール（の導入）といった新たな視点を得たことから、このような観点からの調査研究を行った。その結果、およそ次のようなことが明らかとなった。

①浦幌町における地域再生の取り組みに関する調査からは、その成立のためには、人的要素の他、地域の自然・文化・社会的環境といった諸条件が必要であることが明らかと

なった。
②浜中町における地域・環境教育活動を積極的に展開している町立高等学校と環境NPOを対象にした継続的な調査からは、地域で体系的な地域・環境教育を展開していくためには、町行政による政策的課題としての明確な位置付けと、多様な主体を巻き込んだ推進体制の構築等が必要であることが明らかとなった。
③隠岐島前地域における「高校魅力化」を中心とした取り組みに関する調査からは、「地域創造造型教師」の実践の成立条件としての「学校と地域の協働体制」の確立に向け、学校と地域とをつなぐ地域教育コーディネーターの存在、校長のリーダーシップ、教員研修プログラムといったことの必要性が明らかとなった。
④導入から7年を経過した岐阜市におけるコミュニティ・スクールに関する調査研究からは、学校統廃合に伴う地域間の対立や葛藤を、その導入により乗り越えることができたことが明らかとなった。
　また、2 年目には共同研究チームによる公開シンポジウム「地域創造・環境保全と教師・学校の役割」を開催、情報交換・意見交換を行い、研究の進捗状況と今後の研究課題に関する共通認識を得た。

（3）3年目
　3 年目には、メインフィールド、サブフィールドの双方における補足調査を行うと同時に研究成果をまとめ、成果報告書を作成した。
　本研究を通じて明らかとなった「地域創造型教師」の実践の成立条件としては、およそ下記のようなものをあげることができる。
　①地域創造型教師の実践の成立条件としては、まずもって、学校と地域との間において、地域づくりに対する課題意識や危機意識の共有に基づく協働体制が確立されていることが必要不可欠である。
　②さらに、学校と地域の間に協働体制を確立していくためには、学校内・学校外（地域）の双方の側に一定の条件が必要である。学校内における条件としては、教職員間の協働体制の構築ないし同僚性の確立、校長のリーダーシップといった学校運営上の条件がある。
③学校外（地域）における条件としては、地域の自然・文化・社会的環境といったものの他に、各種団体、地域住民等、多様な主体を巻き込んだ推進体制の構築と、そうした過程を差配する地域教育コーディネーター、プロジェクトマネージャーといった人材が必要不可欠である。
　さらには、本研究の関心外ではあるものの、学校と地域との間に協働体制を構築していくためには、その必要性に関する意識改革に向けた現職教職員・学校管理者向けの研修会・研修プログラムの必要性や、教員養成プログラムにおける位置付けの必要性が明らかとなった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２０件）
（1）2016年
①宮前耕史、「地方創生」時代における「地域に根ざした教師」像―理論モデルとしての「地域創造型教師」とその養成プログラム開発に向けた研究課題、へき地教育研究、査読有、70号、2016、53-61
②宮前耕史、民俗学と教員養成―北海道教育大学釧路校における「民泊体験」の取り組みから―、現代民俗学研究、査読無、8巻、2016、17-26
③宮前耕史・添田祥史、持続可能な地域づくりと教師・学校、地域再生における教師の役割と実践の成立条件―「地域創造型教師」の養成に向けて（平成25年度～27年度科学研究費助成金（基盤研究（C））研究成果報告書）、査読無、2016、3-14
④宮前耕史、「学校発」の地域づくり―「うらほろスタイルふるさとづくり計画」の成り立ち、査読無、地域再生における教師の役割と実践の成立条件―「地域創造型教師」の養成に向けて（平成25年度～27年度科学研究費助成金（基盤研究（C））研究成果報告書）、査読無、2016、15-48
⑤野村卓、コミュニティ組織がつくる持続可能な地域文化と教育、持続可能な食と農のための教育研究、査読無、1、2016、1-14
⑥柴田真由子・平岡俊一、地域の自然環境に対する地元住民の認識変化と保全活動関与のきっかけに関する考察―認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト関係者へのインタビュー調査から、ESD・環境教育研究、査読無、18巻、2016、11-21
⑦平岡俊一、環境NPO「霧多布湿原ナショナルトラスト」の活動から見る北海道浜中町における地域・環境教育活動の到達点と課題、地域再生における教師の役割と実践の成立条件―「地域創造型教師」の養成に向けて（平成25年度～27年度科学研究費助成金（基盤研究（C））研究成果報告書）、査読無、2016、51-66
⑧安井智恵、コミュニティ・スクールを核とした地域創造の可能性―子ども・大人・地域をつなぐ岐阜市のコミュニティ・スクールの展開、地域再生における教師の役割と実践の成立条件―「地域創造型教師」の養成に向けて（平成25年度～27年度科学研究費助成金（基盤研究（C））研究成果報告書）、査読無、2016、69-90
⑨安井智恵、学校統廃合の円滑な実施に対するコミュニティ・スクール制度導入の成果―伝統小学校の事例から―、岐阜女子大学紀要、査読無、45、2016、97-108
（2）2015年

⑩宮前耕史・添田祥史、「地域創造型」教師養成に向けたプログラム開発―「うらほろスタイル推進地域協議会」と連携した釧路校地域教育開発専攻地域教育分野の取り組み、北海道教育大学紀要（教育科学編）、査読無、65 巻 2 号、2015、95-102
⑪宮前耕史、地域に対する愛着および協働意識を養い育む特別活動―島根県立隠岐島前高等学校の人間体験「ヒトツナギ」、ESD・環境教育研究、査読無、17 巻 1 号、2015、43-54
⑫野村卓・長縄裕太、雑豆類を活用した生活体験と生物育成を連結させた教材開発、日本産業技術学会北海道支部研究論集、査読無、28 号、2015、10-14
⑬宮前耕史・本間悠資・住吉泰斉・立野里奈・長澤愛理、地域のために地域とともに―「うらほろスタイル」から学ぶ地域教育開発専攻地域教育分野の「地域創造型教師」養成の取り組み―、釧路論集、査読無、47 巻、2015、1-12
（3）2014 年
⑭宮前耕史、現代「地域教育計画」としての「うらほろスタイルふるさとづくり計画」、へき地教育研究、査読有、69 巻、2014、61-72
⑮平岡俊一、北海道教育大学釧路校・地域社会と環境研究室における北海道浜中町をフィールドにした持続可能な地域づくりへの貢献を志向した教育研究活動について―サスティナブルツーリズムをテーマにした調査研究活動（2013 年度）の過程、へき地教育研究、査読無、69 巻、2014、73-80
⑯添田祥史・宮前耕史・平岡俊一・近江正隆・阪野真人・野村卓、シンポジウム報告「北海道の自然・教育・まちづくり」、釧路論集、査読無、46 巻、2014、17-44
⑰宮前耕史・渡邊希美・上山紗耶、「うらほろスタイル」から学ぶ「地域に根ざした教師」像、釧路論集、査読無、46 号、2014、9-15
（4）2013 年
⑱宮前耕史・小林可奈・栗本由佳、「うらほろスタイル」から学ぶ地域教育開発専攻・地域教育分野の「地域創造型教師」養成の取り組み、釧路論集、査読無、45 号、2013、1-8
⑲宮前耕史、地域の再生と地域伝統文化・学校教育―岩手県大槌町における「ふるさと科」の創造と吉里吉里中学校の「郷土芸能伝承活動」、へき地教育研究、査読無、68 巻、2013、49-61
⑳平岡俊一・的場信敬・豊田陽介・井上芳恵・多比良雅美・多比良康彦、地域づくり型温暖化対策推進のためのパートナーシップ組織の構築に関する考察―愛媛県内子町における実践の成果と課題、ESD・環境教育研究、査読無、16 巻、2013、13-22

〔学会発表〕（計１７件）
（1）2016 年
①宮前耕史、地域のために地域とともに―「うらほろスタイル」から学ぶ北海道教育大学釧路校地域教育開発専攻地域教育分野の「地域創造型」教師養成の取り組み―、うらほろフォーラム 2016、2016 年 2 月 6 日、浦幌
②野村卓・鈴木健介・佐藤良樹、通学合宿を通した自尊感情の育成に関する検討、2016 年度日本環境教育学会北海道支部・北海道環境教育研究会・北海道教育大学釧路校 ESD 推進センター共催研究大会、2016 年 3 月 6 日、札幌
（2）2015 年
③宮前耕史、「うらほろスタイルふるさとづくり計画」の成り立ちから「地域創造型教師」の実践の成立条件を考える、日本環境教育学会北海道支部大会公開シンポジウム「地域創造・環境保全と教師・学校の役割」、2015 年 3 月 7 日、札幌
④宮前耕史、地域創造型教師教育の必要性、日本環境教育学会北海道支部大会公開シンポジウム「地域創造・環境保全と教師・学校の役割」、2015 年 3 月 7 日、札幌
⑤宮前耕史、島根県立隠岐島前高等学校「高校魅力化プロジェクト」の成り立ちから「地域創造型教師」の実践の成立条件を考える、日本環境教育学会北海道支部大会公開シンポジウム「地域創造・環境保全と教師・学校の役割」、2015 年 3 月 7 日、札幌
⑥平岡俊一、認定 NPO 法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」と浜中町における環境・地域教育活動、日本環境教育学会北海道支部大会公開シンポジウム「地域創造・環境保全と教師・学校の役割」、2015 年 3 月 7 日、札幌
⑦安井智恵、コミュニティ・スクールを核とした地域創造の可能性―子ども・大人・地域をつなぐ岐阜市のコミュニティ・スクールの展開、日本環境教育学会北海道支部大会公開シンポジウム「地域創造・環境保全と教師・学校の役割」、2015 年 3 月 7 日、札幌
⑧野村卓、趣旨説明、日本環境教育学会北海道支部大会公開シンポジウム「地域創造・環境保全と教師・学校の役割」、2015 年 3 月 7 日、札幌
⑨長縄裕太・佐藤良樹・中藤貴一・小野光彩・及川大介・野村卓、道東の子どもの主体性を育む雑豆類を活用した生活体験と生物育成を連結させた教育プログラムの開発、日本環境教育学会北海道支部大会、2015 年 3 月 7 日、札幌
⑩宮前耕史・半澤礼之、「地域創造型教師」養成に向けたプログラム開発、平成 27 年度日本教育大学協会研究集会、2015 年 10 月 10 日、大宮
⑪安井智恵、コミュニティ・スクールを核とした地域創造の可能性、日本学習社会学会第 12 回大会、2015 年 9 月 26 日、釧路
（3）2014 年
⑫安井智恵、学校・家庭・地域の連携と地域創造型の教育―うらほろスタイルの実践事例から、日本学習社会学会第 11 回大会、2014 年 9 月 6 日、東京
⑬長縄裕太・野村卓、雑豆類を活用した生活

体験と生物育成を連結させた教材開発、日本産業技術教育学会北海道支部大会、2014 年 11 月 1 日、札幌
⑭長縄裕太・井上祥太郎・野村卓、持続可能な学校・地域づくりと生活体験学習の連携によって、子どもたちはいかに成長するのか、日本環境教育学会北海道支部研究大会、2014 年 3 月 9 日、札幌
（4）2013 年
⑮宮前耕史・添田祥史、「地域創造型」教師養成に向けて―「うらほろスタイル推進地域協議会」と連携した北海道教育大学釧路校・地域教育開発専攻・地域教育分野の取り組み、平成 25 年度日本教育大学協会研究集会、2013 年 10 月 5 日、札幌
⑯安井智恵、女性校長のキャリア形成に関する一考察、X 県女性校長のキャリアに関する実態調査を通して―、日本キャリア教育学会・日本産業教育学会合同研究大会、2013 年 10 月 27 日、名古屋
⑰安井智恵・河合早苗、公立小学校女性校長の実態とキャリア形成に関する調査研究、日本学習社会学会第 10 回大会、2013 年 8 月 31 日、大阪

〔図書〕（計１件）
（1）2013 年
①玉井康之（監修）、二宮信一・川前あゆみ（編著）、戸田竜也・廣田健・境智洋・中川雅仁・野村卓（著）、教育新聞社、教育活動に活かそう～へき地小規模校の理念と実践、2013、184

６．研究組織

(1)研究代表者
宮前　耕史（MIYAMAE,Yasufumi）
北海道教育大学・教育学部釧路校・准教授
研究者番号：３０５８４１５６

(2)研究分担者
添田　祥史（SOEDA,Yoshifumi）
福岡大学・人文学部・准教授
研究者番号：８０５３１０８７

平岡　俊一（SOEDA,Yoshifumi）
北海道教育大学・教育学部釧路校・准教授
研究者番号：７０５６７９９０

野村　卓（NOMURA,Takashi）
北海道教育大学・教育学部釧路校・准教授
研究者番号：００５０７１７１

安井智恵（YASUI,Tomoe）
岐阜女子大学・家政学部・准教授
研究者番号：４０４４０５５７